様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　５ 月 １９ 日現在

機関番号：１４１０１
研究種目：若手研究
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ１３０５３

研究課題名（和文）戦前期日本プロレタリア文学の国際連帯に関する研究：ドイツとアメリカを中心に

研究課題名（英文）Research on the International Solidarity of Japanese Proletarian Literature in the Pre-War Period: Focusing on Germany and America

研究代表者
和田　崇（WADA, Takashi）

三重大学・教育学部・准教授

研究者番号：１０７５９６２４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、アメリカの左翼雑誌New Massesを中心に日本プロレタリア文学関連記事を調査し、日本のプロレタリア文化団体の詳細な紹介や日本のプロレタリア詩が複数掲載されるなど、日米間のプロレタリア文学運動において具体的な交流があったことを確認した。また、戦前期ドイツにおける日本のプロレタリア文学の翻訳について、葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」、徳永直『太陽のない街』、小林園夫の詩２編の分析を通じて、それぞれの訳文の特徴や翻訳方法の意義について明らかにした。さらに、国際シンポジウムを開催して研究者間で意見交流をし、東ドイツにおける近代日本文学の翻訳受容研究という発展的課題を見出すことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の学術的意義として、まず、アメリカの左翼メディアにおける日本プロレタリア文学の翻訳や紹介状況について、ある程度解明できたことが挙げられる。特に、日本のプロレタリア文化団体の成員が英訳したものがアメリカの雑誌に掲載されるなど、ドイツの事例とは異なる方法も見出せた。また、日本のプロレタリア文学作品のドイツ語訳の分析を通じ、日独間の左翼文学における自然主義の捉え方の相異など、文学史的成果もあげることができた。社会的意義としては、国家や巨大資本に依存しない民間有志による国際的な文化交流の一端を明らかにすることで、グローバル化した今日にもつながる国際連帯の方法や可能性を提示できたことが挙げられる。

研究成果の概要（英文）：This study investigated articles related to Japanese proletarian literature, mainly in the American left-wing magazine New Masses, and confirmed that there were concrete exchanges in the proletarian literary movements between the two countries, including detailed introductions to Japanese proletarian cultural organisations and the translation of several Japanese proletarian poems. In addition, regarding the translation of Japanese proletarian literature in pre-war Germany, through the analysis of Hayama Yoshiki's 'Letter in a Cement Barrel', Tokunaga Sunao's 'The Sunless Street' and two poems by Kobayashi Sonoo, the characteristics of each translation and the significance of the translation method were clarified. Furthermore, an international symposium was held to exchange opinions among researchers, leading to the discovery of the developing issue of research on the reception and translations of modern Japanese literature in GDR (East Germany).

研究分野：日本近代文学

キーワード：比較文学　翻訳　国際交流　プロレタリア　マルクス主義　社会主義　ジョン・リード・クラブ　千田是也

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

1920～30 年代に隆盛した日本のプロレタリア文学は、各国の社会主義ネットワークを通じた国際文化交流の一面もあった。社会主義といえば、ソヴィエト・ロシア（ソ連）との関係が重視されるが、日本のプロレタリア文学団体と関係が深かったのはソ連だけではない。たとえば、1930 年代のドイツには、劇作家の千田是也や評論家の勝本清一郎、小説家の藤森成吉がおり、ベルリンで日本プロレタリア文学の紹介を行っていた。また、洋画家の石垣栄太郎や野田英夫はアメリカのニューヨークに滞在し、同地の左翼団体に所属した。

これらの活動は、各国政府によって左翼運動が規制される中で行われており、国家や巨大資本に依存しない、民間有志による国際的な文化交流の先駆的試みだったと評価できる。たとえば、1930 年の国際革命作家会議に勝本と藤森が出席したことは、日本人作家が国際会議に参加した最初である。また、徳永直の長編小説『太陽のない街』が 1930 年にドイツ語に翻訳され、後に各国で重訳されたことは、戦前に西洋へ日本の近代小説が流通した希少な事例だった（和田崇 2013）。

こうしたプロレタリア文学運動における国際文化交流に関わる先行研究としては、世界革命文学の資料を邦訳集成した（栗原幸夫ほか　1972-1974）がある。また、（川上・加藤　1995）や（加藤　2008）は、1920～30 年代のベルリンにいた日本人の知識人の動向を浮かび上がらせ、さらに、（和田博文ほか　2006 年）は、ベルリンに留学した日本の文学者の足跡を明らかにしている。これらの文献が、プロレタリア文学運動の国際性を探究する上で重要であることは間違いない。しかし、これらの先行研究では捨象されたトピックもあり、とりわけ文学関係の一次資料に特化したミクロな視点による分析や考察をする余地は残されている。

この問題意識から、報告者は一次資料を丹念に探索して日本プロレタリア文学運動の国際性を追究し、ドイツにおける日本プロレタリア文学の翻訳や紹介状況を明らかにした（和田崇 2019）。その結果、『太陽のない街』や『蟹工船』といった日本のプロレタリア文学作品がドイツで禁止処分を受けた事例や葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」のドイツ語の初訳を発見するなど、ミクロな視点でしか見えない新たな資料の発掘に成功した。次のステップとして、ドイツで発見した資料の分析や意義付けのほか、ドイツ以外の国との連帯状況の把握が求められる。

〈参考文献一覧〉

・（和田崇　2013）：和田崇「『太陽のない街』の翻訳と伝播：*Die Straße ohne Sonne*(独訳)を中心に」（『日本近代文学』88 集　2013 年）
・（栗原ほか　1972-1974）：栗原幸夫ほか編『資料世界プロレタリア文学運動』全 6 巻（三一書房　1972～1974 年）
・（川上・加藤　1995）：川上武・加藤哲郎『人間国崎定洞』（勁草書房　1995 年）
・（加藤　2008）：加藤哲郎『ワイマール期ベルリンの日本人』（岩波書店　2008 年）
・（和田博文ほか　2006）：和田博文ほか『言語都市・ベルリン』（藤原書店　2006 年）
・（和田崇　2019）：和田崇『科学研究費助成事業　研究成果報告書：戦前期ドイツにおける日本プロレタリア文学の翻訳と受容に関する研究』（2019 年）

２．研究の目的

「研究開始当初の背景」を踏まえて、本研究では当初、2 つの大きな目的を設定した。

本研究の目的の一つは、社会主義ネットワークを通じた日本と海外の文化交流の様態を明らかにすることにより、国際性という視点から日本プロレタリア文学を近代文学史上に意義づけることである。そのために、アメリカの革命文学に関する一次資料を調査し、日本プロレタリア文学の翻訳や紹介状況を探索して、これまでの蓄積があるドイツの資料と照らし合わせながら、日独米３ヶ国におけるプロレタリア文化の交流の実態を解明することを目指した。

もう一つの目的は、如上の一次資料の調査を通じて、日独米の左翼文献資料の一覧を作成し、プロレタリア文学を中心とした戦前の左翼文献の翻訳・流通状況の一端を解明することである。日本と海外の左翼文献の流通状況を明らかにすることで、近代における日本文学の翻訳と流通に関する総合的な研究にも寄与することを目指した。

１年延長した４年間の研究期間を通じ、以上の二つの研究目的は一貫していたが、ただし、新型コロナウィルス感染症が流行した影響で、特に資料探索については困難が生じ、収集対象を大幅に変更せざるをえなかった。これについては「研究の方法」にて後述する。

３．研究の方法

本研究は当初３年の実施計画を立て、その後１年の延長申請を経て４年間実施した。その間に行った研究の方法は以下のとおりである。

まず初年度は、ライフワークとして作成している私家版「戦前期日本の雑誌・新聞・図書におけるドイツのプロレタリア文学関連記事目録」や「戦前期日本左翼系文芸雑誌・新聞・図書における翻訳文献目録」を参考にして、アメリカのプロレタリア文学に関する記事を抽出した。その結果を踏まえて、戦前から発行されていたアメリカの左翼雑誌 *New masses* と *Partisan review*

を調査し、日本関連記事の複写や目録の作成を行った。
２年目は、初年度の成果を踏まえ、日本では収集できないアメリカの革命文学関連資料を調査する予定であったが、この年度から新型コロナウィルス感染症による行動制限が強化され、新規の資料調査を断念せざるを得なくなった。そのため、日本とアメリカのプロレタリア文学運動の交流については国内で収集した資料の分析を進め、日本とドイツの交流については、これまでに収集した資料の意義を再検討することで、新たな課題を模索した。
研究２年目と３年目を通じて行った資料の分析のうち、特にドイツの資料に関しては、翻訳の問題を中心に考察を行った。具体的には、報告者が以前発見した葉山嘉樹の「セメント樽の中の手紙」の翻刻を行い、ドイツ語の訳文の特徴を分析した。また、徳永直の『太陽のない街』が、書籍出版のみならずドイツの新聞や雑誌といったメディアに断片的に掲載された意義を、訳文の比較などから検討した。また、無名のプロレタリア詩人である小林園夫が戦前のドイツの左翼メディアに掲載された意義について考察した。
研究４年目には、当初の計画どおり（ただし、当初の３年計画では最終年の３年目に予定）、海外や各国文学の研究者を招いた国際シンポジウムを開催し、報告者のこれまでの研究成果を他の研究者と意見交流する中で、戦後東ドイツにおける日本の左翼文学受容、および日本の原爆文学受容という新たな共同研究のテーマ開拓につながった。これを受け、東ドイツにおける日本の左翼文学受容については、本研究の助成を活用して、最終年度に次へのファーストステップとなる基礎研究（書誌整理など）を行った。

４．研究成果

⑴ 「*New Masses* 誌上における日本プロレタリア文学関連記事目録」の作成

如上の初年度に行った *New masses* と *Partisan review* の資料調査を踏まえて、「*New Masses* 誌上における日本プロレタリア文学関連記事目録」を作成し、PDF ファイルにして Web サイトで公開した。*Partisan review* の目録を作成しなかったのは、戦後の発行分にヒサエ・ヤマモトの短編小説、川端康成に関する批評、尾崎放哉の翻訳が確認できる程度で、めぼしい成果を得られなかったためである。一方の *New masses* では、46 件の日本関連記事が確認でき、内訳は、評論 2、通信（投書・紹介・書簡・檄文・告知含む）17、絵画（写真含む）14、詩 6、小説 2、随筆（評伝・書評含む）5 件であった。以下、限定的に抜粋掲載する。

タイトル	筆者	誌(紙)名	巻	号	頁		発行			種類	備考
					始	終	年	月	日		
May—U. S. workers demonstrate on May Day.	Eitaro Ishigaki	New Masses	6	7	12	12	1930	12	-	絵	石垣栄太郎
Japanese Revolutionary Literature and the International Union of Revolutionary Writers	Bela Illes	New Masses	7	3	22	22	1931	8	-	公開書簡	第2回革命作家国際会議(ハリコフ会議)における決議への労農芸術家連盟(文芸戦線)からの抗議に対するI.U.R.W.事務局からの返答。
Early in the Morning	Ryuji Nishizawa / Masaki Ikeda & Norman Macleod[共訳]	New Masses	7	5	4	4	1931	10	-	詩	西沢隆二[たかじ]の詩「私は朝早く」（『ナップ』1931年8月号）を、池田正樹が英訳。
Workers Art: Los Angeles - Japanese Arts Group	L. A. Japanese Proletarian Arts Group	New Masses	7	6	28	28	1931	11	-	紹介	Japanese Proletarian Arts Group of Los Angelesの活動内容。

１行目の絵画の作者である石垣栄太郎は、*New masses* を発行したジョン・リード・クラブの中心的な画家の一人である日系移民で、1927 年 9 月の 5 巻 2 号で彼の絵は表紙にも採用された。2 行目の公開書簡では、日本のプロレタリア文化団体「ナップ」の詳細な組織図が掲載されており、日本のプロレタリア文化団体に対する国際的関心をうかがわせる。3 行目の詩の翻訳者は池田正樹で、日本のナップに所属する池田などが一度日本で翻訳し、それを現地のアメリカ人が翻案(adapted)するという掲載方法が複数確認できた。4 行目の“Japanese Proletarian Arts Group of Los Angeles”の活動紹介のように、*New masses* 誌上を通じてアメリカの日本人移民によるプロレタリア文化団体の活動状況を探索することができた。

⑵ 日本プロレタリア文学の戦前期ドイツ語訳の分析

① 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」

千田是也とアルフ・ラダッツが共訳し、戦前にドイツで発行された新聞 *Berlin am Morgen*, 6 Feb. 1931.の紙面に掲載された、葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」のドイツ語訳„Brief in Zement von Yoshiki Hayama“を翻刻し、資料紹介と若干の分析を行った。分析の結果、全体として翻訳が説明的になっており、随所で翻訳独自の補足説明が加えられていること、日本語でないと伝わりづらい葉山独特の比喩表現について、そのまま訳出されいる箇所と省略されている箇所が存在すること、結末部を中心に大きな加筆が見られることの 3 点を明らかにすることができた。また、成果発表後にドイツ文学者からの指摘によって、全体にスタンダードなドイツ語訳がされており、主人公のいかにも労働者風のセリフの調子は反映されていないこともわかった。

② 徳永直『太陽のない街』

これも千田とラダッツの共訳による、徳永直『太陽のない街』のドイツ語訳 *Die Straße ohne Sonne* が、書籍や完訳の新聞連載とは別に、戦前のドイツの新聞や雑誌メディアに断片的に

掲載されていたことの意義を考察した。考察の結果、オリジナルの持つ場割構成の特色が、断片掲載でも十分に読者を階級意識へ喚起する物語内容を有しており、翻訳を進行する過程で生じた特殊なアダプテーションの実践として、あえて断片掲載された可能性を指摘した。また、『太陽のない街』が、ドイツではエミール・ゾラの『ジェルミナール』と比較して評価されながらも、日本ではそのような評価が生まれなかった文学史的背景についても明らかにした。

③　小林園夫のプロレタリア詩

これもまた千田とラダッツの共訳により、戦前期のドイツ共産党の機関紙『ローテ・ファーネ（*Die Rote Fahne*）』に掲載された„Das Verbotene Lied（禁じられた歌）“（16 Feb.1930.）および„Der Hochofen（溶鉱炉）“（3 Apr. 1931）について、作者である小林園夫の文学活動を整理する中で、２つの翻訳詩の意義について考察した。前者の„Das Verbotene Lied“について、オリジナルは「出発」というタイトルであったのが、別の作者の詩である浅野純一の「五月一日の工場で」とコラージュされることで、「禁じられた歌」という合併詩にアダテーションされたことを明らかにした。後者の„Der Hochofen“については、原詩のタイトルは「プロレタリアの詩」であり、大幅に訳出されていない描写のある要約的な翻訳で、また、原詩の「おいら」がドイツ語では「wir（俺達）」と訳されるなど、「おいら」を複数形で包括することで仲間意識を喚起する工夫がなされていることが明らかとなった。

⑶　国際シンポジウムの開催と新たな研究テーマの開拓

①　国際シンポジウム「吼えろアジア」の開催

これまでの研究成果を他の研究と交流することで相対化し、新たな研究課題を見出すために、研究最終年度に「吼えろアジア」と題する国際シンポジウムを、他の科研プロジェクトと共同開催した。5 つのセッションで、国内外からディスカッサントを兼ねた司会も含めて 20 名が発表し、その中で報告者は、「翻訳、プロパガンダ、アダプテーション」のセッションの司会を担当し、活溌な意見交流を行った。このセッションの中で、ブルナ・ルカーシュ氏は日本におけるゴーリキー受容について、萩原健氏が千田是也を媒介とした日独間の演劇のアダプテーションについて、ホルカ・イリナ氏が 1950 年代のルーマニアにおける日本プロレタリア文学の翻訳状況について発表し、本科研のこれまでの成果と呼応する内容であった。特に、ホルカ氏とルカーシュ氏の議論で、旧社会主義国であるルーマニアとチェコで同時期に受容された近代日本文学にはいくつかの特徴が見出せることが指摘され、これが報告者の新たな発展的研究課題の開拓にもつながった。

②　東ドイツにおける近代日本文学の翻訳

如上の国際シンポジウムを経て、これまでの戦前期ドイツにおける日本プロレタリア文学の受容研究から発展し、新たに東ドイツにおける近代日本文学の翻訳受容研究に着手した。次のフェーズに向けた書誌的な基礎調査を行い、その結果、東ドイツにおける近代日本文学の翻訳出版は Aufbau と Volk und Welt の２つ出版社が中心を担ったこと、初期（1950～60 年頃まで）は徳永直や小林多喜二、宮本百合子といった左翼作家の作品の翻訳が中心であること、他の旧社会主義ヨーロッパ諸国と比べてロシア語からの重訳が少ないことなどを確認することができた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 Takashi Wada	４．巻 11(6)
２．論文標題 Anti-Bourgeois Media in the Japanese Proletarian Literary Movement	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Humanities	６．最初と最後の頁 160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/h11060160	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 和田 崇	４．巻 6
２．論文標題 一閃した小林園夫のプロレタリア詩：「てめえ」と「あいつ」と「俺達」	５．発行年 2022年
３．雑誌名 フェンスレス	６．最初と最後の頁 91-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 和田 崇	４．巻 55
２．論文標題 ドイツにおける『太陽のない街』の翻訳と受容：断片掲載された「日本の『ジェルミナール』」	５．発行年 2022年
３．雑誌名 社会文学	６．最初と最後の頁 107-121
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 和田 崇	４．巻 16
２．論文標題 Brief in Zement von Yoshiki Hayama：葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」の戦前ドイツ語訳	５．発行年 2022年
３．雑誌名 国語科年報・思草	６．最初と最後の頁 39-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計5件（うち招待講演　2件／うち国際学会　3件）

１．発表者名 Takashi Wada
２．発表標題 Translations of Japanese Leftist Literature in Early East Germany (DDR): Tokunaga Sunao, Kobayashi Takiji, Miyamoto Yuriko
３．学会等名 JAPAN: Literary and cultural representations in communist Europe（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 和田 崇
２．発表標題 〈同志愛〉と〈恋愛／夫婦愛〉：日本の左翼文学における愛情の問題
３．学会等名 社会主義文化と身体のイメージ：ユーラシアにおける英雄・女性・死者の表象比較研究（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 和田 崇
２．発表標題 日本のモダニズム文学とプロレタリア文学のあわい：〈新興〉の境界をめぐって
３．学会等名 モダニズム研究会キックオフミーティングⅠ（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Takashi Wada
２．発表標題 A Look at Socialist Nations: USSR and China in the mid-1950s as seen by a Japanese Communist writer
３．学会等名 AAS-in-Asia 2020（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 和田 崇
２．発表標題 ドイツにおける翻訳と受容：「日本の『ジェルミナール』」及び断片掲載に関する考察【パネル発表：プロレタリア文化運動のモダニティ：脚色／共有される『太陽の2019年ない街』】
３．学会等名 日本近代文学会・昭和文学会・社会文学会合同国際研究集会（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計1件

１．著者名 Brice Fauconnier, Irena Hayter, Hong Jong-wook, Lee Juhee, Jeff E. Long, Murata Hirokazu, Viren Murthy, Naito Yoshitada, Nakagawa Shigemi, George T. Sipos, David Stahl, Wada Takashi, Max Ward, Mark Williams	４．発行年 2021年
２．出版社 Routledge	５．総ページ数 290
３．書名 Tenko: Cultures of Political Conversion in Transwar Japan (Nissan Institute/Routledge Japanese Studies)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

小林園夫著作目録
https://www.cc.mie-u.ac.jp/~wadataka/IndexC_4ed.pdf
New Masses誌上における日本プロレタリア文学関連記事目録
https://www.cc.mie-u.ac.jp/~wadataka/IndexB.pdf

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

国際研究集会 吼えろアジア	開催年 2022年～2022年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関